

芸工 インターナショナル オフィス

令和 6 年度活動報告

2025.5.19



Faculty of Design
Graduate School of Design, School of Design
Kyushu University



International Office
Faculty of Design

目次

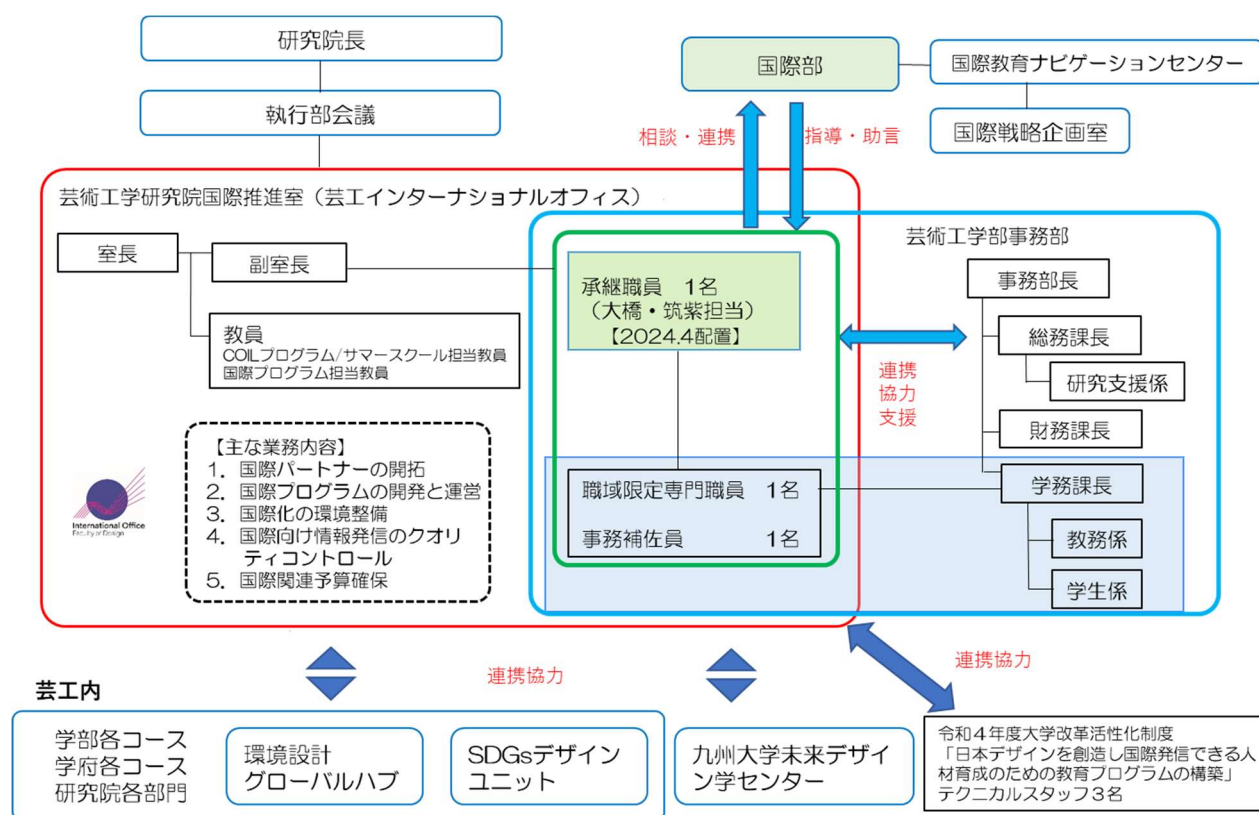
組織図

芸工インターナショナルオフィス 概要

はじめに

- 1 国際プログラム・海外留学
 - 1.1 国際プログラム（派遣）
 - 1.2 学生サポート
 - 1.3 ダブル・ディグリープログラム実績（派遣）
 - 1.4 交換留学実績（派遣）
- 2 留学生サポート
 - 2.1 芸工サポーター運営
 - 2.2 同窓留学生のネットワーク構築
- 3 国際化への取り組み: 大学改革活性化制度「デザインと日本」英語による科目シリーズ開講
 - 3.1 日本デザインの創造、国際発信できる人材を育成する教育プログラムの概要
 - 3.2 デザインと日本 A/日本デザインの理解 A（2024 年度前期）
 - 3.3 デザインと日本 B/日本デザインの理解 B（2024 年冬学期）
 - 3.4 デザインと日本 C（2024 年秋学期）
 - 3.5 デザインと日本 C/日本デザインの理解 C-2（2024 年秋学期）
 - 3.6 レクチャー・シリーズとイベント
- 4 国際教育イニシアティブ
 - 4.1 Collaborative Online International Learning (COIL): INTAC
 - 4.2 工学部連携 シリコンバレー流仮想起業プログラム: ELEP, Zero to One
- 5 海外パートナーの開拓
 - 5.1 ダブル・ディグリープログラム始動
 - 5.2 海外大学関係者の表敬訪問対応
 - 5.3 部局間国際交流協定新規締結、更新のサポート
 - 5.4 ダルムシュタット応用科学大学でのワークショップ
- 6 国際広報活動の充実
 - 6.1 国際広報
 - 6.2 部局活動の海外発信
 - 6.3 留学生リクルート
- 7 国際連携プロジェクト支援
 - 7.1 国際連携教育支援事業
 - 7.2 その他サポート
- 8 授業の英語化支援 FD
- 9 様式の英語化
- 10 各種予算申請
- 11 その他の活動

組織図



芸エインターナショナルオフィス 概要

九州大学は世界に開かれた大学として国際感覚豊かな人材の育成を目指している。その中で芸術工学研究院は、研究・教育の両面で積極的な国際交流活動に取り組んでいる。芸術工学研究院が目指す国際化構想を実現するために国際関係事業の企画・立案などを行う組織として、2020（令和2）年度に芸エインターナショナルオフィスが設置された。

芸エインターナショナルオフィスの主な役割は、部局内の研究活動や教育を海外に精力的に発信するとともに、海外協定校の開拓、国際プログラムの設置・運営、海外大学との共同研究教育を支援することである。従来から行ってきた外国人研究者・留学生受入れや海外派遣をより積極的に支援するとともに、生活面の充実にも力を入れ、大橋キャンパス内では、各国の留学生と部局の教職員および学生との交流活動も活発に行われている。

はじめに

2024年度は、当オフィスにとって組織体制の見直しと機能強化を進めた一年となった。組織の再編を経て、全学的な国際化戦略と連動した部局国際推進室との効果的な連携体制を構築し、より包括的な国際化支援を実現することができた。

国際交流の活性化に伴い、留学生支援体制の強化に取り組んだ。特に新入留学生向けヘルプデスクの設置は、来日直後の不安解消と円滑な学生生活のスタートに大きく貢献した。また、オンラインとリアルを組み合わせたハイブリッド形式の同窓会を実施することで、国内外の卒業生とのネットワークを維持・強化することができた。

国際ネットワークの面では、例年を大きく上回る多くの海外協定校および関係大学からの訪問を受け入れた。これらの交流を通じて、今後の教育・研究連携の基盤を強化し、将来の共同プロジェクトや学生交流の可能性を広げる道筋を開くことができた。国際的なパートナーシップの深化は、本学の国際的プレゼンス向上にも寄与している。

教育の国際化においては、授業の二言語化推進のためのFDを実施し、将来に向けた重要な一歩を踏み出すことができた。この取り組みは始まったばかりではあるが、今後、教員の意識向上と実践的なスキル習得を通じて、日本人学生と留学生がともに学ぶ環境の充実につながることを期待される。次年度以降、このFDの成果が授業実践に反映され、教育の質的向上が実現することを目指している。

国際プログラムにおいては、前年度の成果を基盤としつつ内容をさらに充実させるよう努めた。今年度は台湾ワークショップを臨時開設科目として単位化し、国際プログラムの教育的価値を高めることができた。この取り組みにより、学生の参加意欲向上と学習成果の可視化が進むことが期待される。これらのプログラムが、単なる教育機会の提供にとどまらず、国際的な人材ネットワーク形成の場としても機能するよう引き続き改善を重ねていく。

次年度は、これまで構築してきた体制とプログラムの安定的な運用を図りながら、急速に変化するグローバル社会の要請に応えるべく、さらなる革新と展開を目指す。特に、多様な文化的背景を持つ学生・研究者が互いに刺激し合い、独創的な活動を展開する場の醸成に注力したい。

本報告書は、2024（令和6）年度の活動を総括し、今後の国際化戦略立案の基礎資料とすることを目的として作成したものである。日頃よりご支援いただいている学内外の関係者の皆様に心より感謝申し上げますとともに、引き続きのご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

1 国際プログラム・海外留学

1.1 国際プログラム（派遣）

2021 年度から開始した芸術工学部 2 年生対象の留学を促進する教育プログラム

目的

国際社会において主体的に活動するために必要な姿勢、態度、コミュニケーション能力を身につけ、かつ専門的なデザインの知識・能力と自国についてのアイデンティティをもった人材を育成することを目的とする。

プログラム修了の要件

国際プログラム登録後、次の 3 つの条件を満たす学生に対してプログラム修了証を交付する。

1. 次の 4 科目の単位を修得していること:

- Intellectual Property Rights: Global Perspective（学部 2 年夏学期）
- Global Design Innovation（学部 2 年夏学期）
- Design Pitching Skills（学部 2 年秋学期）
- Start-ups and Global Disruptors（学部 2 年冬学期）

2. 留学（短期留学を含む）により、語学以外の科目で 4 単位以上を取得していること

3. 学部の卒業要件を満たしていること

担当教員

助教 Loh Wei Leong

助教 稲村 徳州

助教 BLANCO Laura

助教 下村 萌



https://www.gg.design.kyushu-u.ac.jp/current_students/international-program

▲国際プログラム詳細

参加人数

10名



▲授業の様子



▲授業の様子

履修生留学のための取組み

- TOEFL、IELTS 等外国語試験対策テキストの貸与
- 留学生チューターとのマンツーマンでの英語レッスンとポートフォリオ作成支援（実施回数延べ 25 回）
- 外国語試験検定料（TOEFL、IELTS 等）一部助成 9 名
- 実用的な英語コミュニケーションを実施。ミーティングやグループワークは全て英語で行い、学生たちは自信をもって積極的なコミュニケーションができるようになった。
- 台湾にある国立台湾師範大学（NTNU）技術工学院との共同ワークショップを2025年3月5日から12日に台湾師範大学で実施。国際プログラム履修生6名と2名の教員が参加した。
- 履修生と教員が留学や異文化理解、進路などについて語り合うお茶会を設け、気軽に英語で交流しながら国際理解を深めた。
- 履修生の個別面談を行い、交換留学の計画についてアドバイスをし、留学希望先に提出する志望理由書やポートフォリオなどの指導を行った。

国立台湾師範大学との共同ワークショップ

2024年度は、臨時開設科目としてOverseas Study Immersion Programを開講した。この授業の目的は、九州大学（KU）と国立台湾師範大学（NTNU）が共同で実施する短期デザインワークショップを通じて、国際プログラムの学生に海外教育の短期体験を提供することである。このイマージョンプログラムを通じて、学生は他国で実践されている様々なデザイン手法を学び、日本国外の国々における起業創出に関する国際的な視点を獲得した。

第1日目：ワークショップの紹介

第2日目：Art and Numeracy Labへの企業訪問

第3日目：Panasonic社、Asia Eastern University of Science and Technology訪問

第4日目：グループワーク（スタートアップ検討）

第5日目：グループワーク（スタートアップ検討、発表準備）

第6日目：成果発表会



▲台湾ワークショップの写真

国際プログラムの広報と情報共有

- ・ 説明会: 学部 1 年生向け (2024 年 4 月 5 日)、学部 2 年生向け (2024 年 4 月 4 日)
- ・ 留学を修了した国際プログラムの参加学生 2 名が、学部 1 年生が履修する Design Case Studies I の授業で自分たちの経験を共有した。

助成資金

- ・ 外国語試験対策・ポートフォリオ作成指導、外国語試験検定料一部助成: 教育のグローバル化推進経費
- ・ 国立台湾師範大学との共同ワークショップ: 国際連携教育支援事業 (学生、教員)、教育のグローバル化推進経費 (教員)
- ・ 海外での留學生活費等: JASSO 海外留学支援制度「世界的デザイン系人材を育成する芸術工学部国際プログラム (派遣)」



▲台湾ワークショップの写真

実績

	履修者数	留学	留学先と奨学金	修了証
第 1 期生 2021 年度	10	4	南洋理工大学 1 名 (JASSO 海外留学支援制度) ミラノ工科大学 1 名 (JASSO 海外留学支援制度) ケルン応用科学大学 2 名	3
第 2 期生 2022 年度	10	5	アムステルダム応用科学大学 1 名 (JASSO 海外留学支援制度) 国立成功大学 1 名 (JASSO 海外留学支援制度) カールスルーエ造形大学 1 名 (トビタテ！留学 JAPAN 新・日本代表プログラム) サンノゼ州立大学 1 名 ウィーン大学 1 名	4
第 3 期生 2023 年度	9	9 (3 名 は、2025 年春留学 予定)	アムステルダム応用科学大学 2 名 ケルン応用科学大学 2 名 アナドル大学 1 名 ミラノ工科大学 1 名 アンハルト応用科学大学 1 名 ダルムシュタット科学技術大学 1 名	-
第 4 期生 2024 年度	10	準備中	-	-



▲国際プログラム第 2 期生

1.2 学生サポート

留学を希望する学生へのサポート

- 留学（派遣）相談件数：44 件 （学部生：42 名、大学院生：9 名、計 51 名）

国際プログラム	8 件（10 名）
留学先大学の選び方	8 件（8 名）
留学奨学金	6 件（7 名）
留学時期	5 件（8 名）
ダブル・ディグリープログラム	5 件（1 名）
留学準備（語学）	4 件（5 名）
留学計画書	4 件（4 名）
提出書類の確認	2 件（2 名）
海外短期プログラム	1 件（1 名）
その他	1 件（1 名）

1.3 ダブル・ディグリープログラム実績（派遣）

大学名	人数・所属
台湾国立成功大学 計画デザイン学部 （大学院修士課程）工業デザイン専攻	1 名・メディアデザインコース M1

1.4 交換留学実績（派遣）

大学名	人数・所属
カールスルーエ造形大学	2 名 インダストリアルデザイン B4 メディアデザイン M1
パリ・ラ・ヴィレット建築大学	2 名 環境設計 M2 環境設計 M1
アールト大学	2 名 ストラテジックデザイン M2 芸術工学専攻 D1
ケルン応用科学大学	2 名 未来構想デザイン B3 インダストリアルデザイン B3
アムステルダム応用科学大学	2 名 メディアデザイン B3 インダストリアルデザイン B3
アナドル大学	1 名 未来構想デザイン B3
ミラノ工科大学	2 名 インダストリアルデザイン B3 メディアデザイン M1
南洋理工大学	2 名 未来共生デザイン M2 インダストリアルデザイン B3
エストニア芸術アカデミー	1 名 芸術工学専攻 D2
アンハルト応用科学大学	1 名 環境設計 B3
HAN 応用科学大学	1 名 メディアデザイン B3
北京理工大学	1 名 インダストリアルデザイン B3
ダルムシュタット応用科学大学	1 名 インダストリアルデザイン B3
ラフバラー大学	1 名 環境設計コース M1
ウィーン大学	1 名 メディアデザイン B4

2 留学生サポート

2.1 芸工サポーター運営

概要

芸工サポーターは、芸工インターナショナルオフィスのもとで活動する学生チームである。留学生の支援や異文化交流を通じて、多様な文化背景を持つ学生たちが共に学び、成長できるキャンパスづくりを目指して 2021 年度に設立された。4 年目を迎えた 2024 年度後期には、芸工サポーターによる「新入留学生向けキャンパスツアー」の実施、新学期直後の「芸工ヘルプデスク」の設置を新規に導入し、新入留学生が大橋キャンパスで安心して学べる環境づくりに貢献した。

サポーター人数

34 名（うち留学生 11 名）

主な活動内容

- ・留学生の来日直後の役所手続きおよび銀行口座開設手続きのサポート

前期：留学生 29 名／サポーター延べ 10 名

後期：留学生 49 名／サポーター延べ 12 名

- ・ウェルカムパーティーの企画・運営

前期：参加者 76 名（留学生 40 名、日本人学生 36 名）

後期：参加者 56 名（留学生 45 名、日本人学生 11 名）

- ・新入留学生向けキャンパスツアー

実施日時：2024 年 9 月 30 日 14:00-16:00

参加者：新入留学生 55 名／ガイド 3 名

訪問施設：工作工房、プロトタイピングラボ、芸術工学図書館、多次元デザイン実験棟、デザインコモン

- ・芸工ヘルプデスク

設置期間：2024 年 10 月 1 日～2024 年 10 月 31 日、平日 12:00-13:00

相談件数：14 件

相談内容：履修登録に関するシステム利用方法、学内 Wi-Fi 接続方法等

活動を支える想い

芸工サポーターは、「芸工」というクリエイティブな環境で、文化の違いを超えたチームワークと相互理解を実践してきた。「新入留学生向けキャンパスツアー」および「芸工ヘルプデスク」の新規導入によって、留学生が本学の教育環境に速やかに、効果的に溶け込むことができた。「芸工にインターナショナルな文化をつくろう!」という目標に対して、実質的な進展を遂げることができた。



▲ウェルカムパーティー



▲キャンパスツアー



▲芸工ヘルプデスク



▲芸工サポーターのロゴ



▲芸工サポーターのポスター

2.2 同窓留学生のネットワーク構築

目的

九州大学芸術工学部・大学院芸術工学府および九州芸術工科大学を卒業後、世界各地で活躍する同窓留学生のネットワークを構築し、卒業生と「芸工」との間の継続的な交流と相互支援の基盤を確立するとともに、現役留学生に対してグローバルなキャリア形成の可能性を提示する。

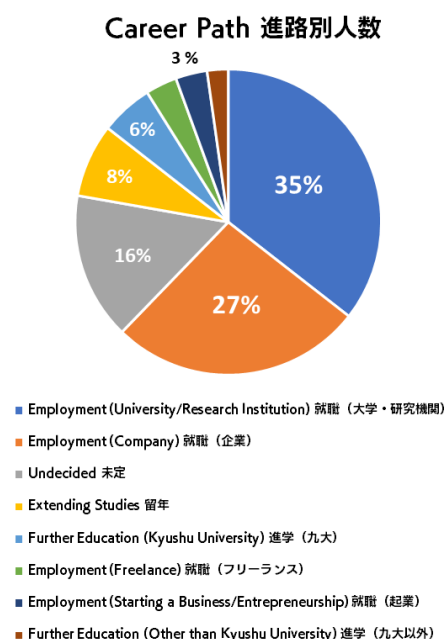
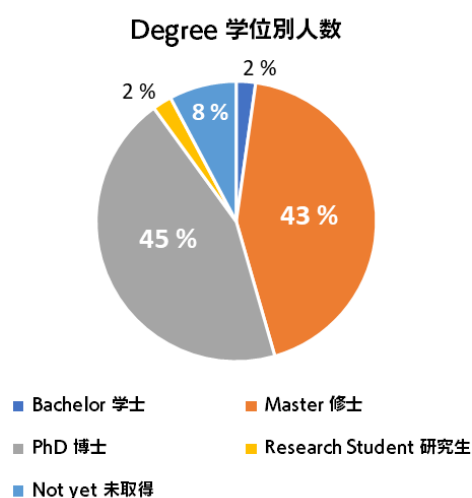
取組み

- 同窓留学生ネットワーク「Geiko Global Alumni Network」への加入促進、情報更新依頼
- 同窓留学生へ季節の挨拶や年間報告書等を添えた定期的な電子メールの送付
- 年間行事として Geiko International Reunion の運営

Geiko Global Alumni Network

九州大学芸術工学部・大学院芸術工学府および九州芸術工科大学を卒業した同窓留学生 90 名（2025 年 3 月 1 日現在）が Geiko Global Alumni Network に登録した。

- 出身国・地域別（人数）：中国（42 名）、インドネシア（10 名）、韓国（5 名）、マレーシア・ブラジル（4 名）、フィリピン・ミャンマー・台湾（3 名）、バングラデシュ・コロンビア（2 名）、オランダ・フランス・ロシア・シリア・クウェート・エジプト・エクアドル・タンザニア・セネガル・シンガポール・タイ・日本（1 名）



Geiko International Reunion 2024

目的

- 同窓留学生の多様なキャリアデザインに関する情報共有
- 同窓留学生に向けた芸工の近況報告

日時 2024 年 11 月 16 日（土）17 時～19 時（日本時間）

会場 【現地】九州大学大橋キャンパス デザインコモン 1 階および 2 階
【オンライン】SpatialChat（Core30 プラン）

使用言語 第 1 部（基調講演）：英語、第 2 部（交流会）：自由

参加対象 同窓留学生、九州大学芸術工学部・大学院芸術工学府在学学生、九州大学教職員

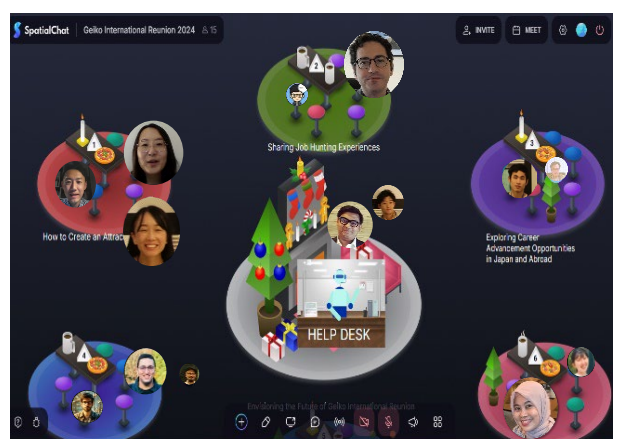
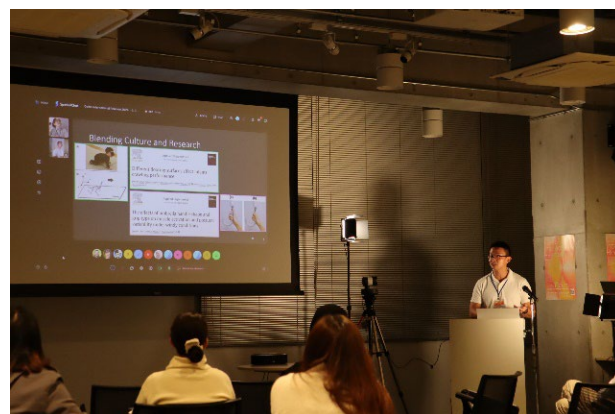
内容

- 開会あいさつ（尾本 章 芸術工学研究院長）
- 同窓留学生代表挨拶（Iyad Alsabouni 助教、UAE 在住、2011 年卒）
- 芸工の近況報告（芸工インターナショナルオフィス室長 Gerard B. Remijn 教授、2003 年卒）
- 基調講演：同窓留学生の多様なキャリアデザインについて
 1. 一般企業のデザイナー（Hongjoo Park さん、英国在住、2016 年卒）
 2. 起業家（Huda Mohammed Faisal さん、バングラデシュ在住、2023 年卒）
 3. 海外大学教員・研究者（張 路 准教授、中国在住、2011 年卒）
 4. 九大芸工教員・研究者（LOH Ping Yeap 助教、日本在住、2017 年卒）
- 集合写真
- 交流会（現地、オンライン）
- 閉会あいさつ（芸工インターナショナルオフィス室長 Gerard B. Remijn 教授）

実施実績 参加者合計 33 名

	同窓生	同窓生かつ九大 芸工教員	九大教職員	九大芸工学生	合計
現地会場	4	3	5	9	21
オンライン	11	1	0	0	12
計	15	4	5	9	33

当日の様子



3 国際化への取り組み：大学改革活性化制度 「デザインと日本」英語による科目シリーズ開講

3.1 日本デザインの創造、国際発信できる人材を育成する教育プログラムの概要

令和4年度大学改革活性化制度「日本デザインを創造し、国際発信できる人材育成のための教育プログラムの構築」の改革計画は、実施体制とノウハウを含め、2020年度から開講した「デザインと日本」の展開拡充の延長線上にある。2022年度から2023年度にかけて大学院改組のカリキュラムに組み込まれている実践的な授業「デザインと日本 A、B、C」の3科目を開講した。

さらに、今年度はスタジオプロジェクト「Design in Japan C」(学府)の他に、臨時開設科目として実践授業と論理を切り分け「Design in Japan C-2/Understanding Japanese Design C-2: History and Theory of Curating」(学部・学府)を開設した。

日本デザイン教育プログラムの実施により、日本人学生及び留学生が、日本の伝統から現代までの美意識に関する理解を深め、そこで得た知識や姿勢をもとに、将来的に革新的なデザインやアートを創造し、さらにその普及と発展を担うキュレーションや国際情報発信ができるポテンシャルを育成する。

3.2 「デザインと日本 A/日本デザインの理解 A」(2024 年度前期)

授業概要

大学改革活性化制度の事業計画に基づき、2020年度から芸術工学部・芸術工学府において「デザインと日本」と題して日本デザインに取り組む授業を開講している。この授業は芸工インターナショナルオフィスが企画・運営するもので、芸術工学府の幅広いデザイン分野を英語で学べるオムニバス形式の講義シリーズである。今年度は写真、建築材料、グラフィックデザイン、音やCGなど、さまざまな専門分野の教員が、それぞれの立場から日本のデザインを紹介する講義が行われた。この授業では日本の伝統工芸と文化を体験するエクスカージョンが含まれる。最後に参加者は講義から興味のあるテーマを選択し、独自の問いを立て考察するレポートを提出した。



▲茶摘み体験

期間 前期(2024年4月10日~6月26日) 水曜4限

担当教員 下村 萌 助教、他

使用言語 英語

履修者 44名(うち留学生35名)

講義内容

文化的翻訳と日本らしさ

写真と日本

エクスカーション：日本の伝統工芸と文化

建築材料のミカタ

イラスト・VR・AI で視覚化するミクロな生物世界

睡眠の科学：日本と世界の睡眠

グラフィックデザインと UI/UX デザイン

日本の〈時=空間〉と音

CG 研究の紹介と日本

ディスカッション&振り返り

准教授 結城 円

准教授 結城 円

助教 下村 萌

講師 土屋 潤

助教 井上 大介

助教 元村 祐貴

助教 藤 紀里子

准教授 城 一裕

准教授 森本 有紀

助教 下村 萌



▲八女茶試飲



▲VR 体験



▲ディスカッション

3.3 「デザインと日本 B/日本デザインの理解 B」(2024 年度冬学期)

授業概要

この科目は、日本のアートとデザインについて、エクスカージョンを含む講義とワークショップ形式で実施した。内容は、音、音楽、香りに焦点を当て、伝統的および現代的なデザインとアートの実践について考察した。履修生たちはこれらの実践に参加し、「儚さ」というテーマを探究し、様々な媒体やメディアを通してその意味を解釈し、独自のデザイン／アート／音楽作品を制作した。これらの作品は、2025年1月26日に多次元デザイン実験棟の実験ホールで一般公開された最終発表イベント「刹那」にて、匂いや手触りなど様々な感覚を通して紹介された。

期間 冬学期

担当教員 助教 Jamieson Daryl

使用言語 英語

履修者 22名(留学生16名)

講義内容

香りの現象学

エクスカージョン：伝統的な線香制作

音と構成

グループワーク 1-3

准教授 Marinucci Lorenzo

助教 Jamieson Daryl

助教 Jamieson Daryl

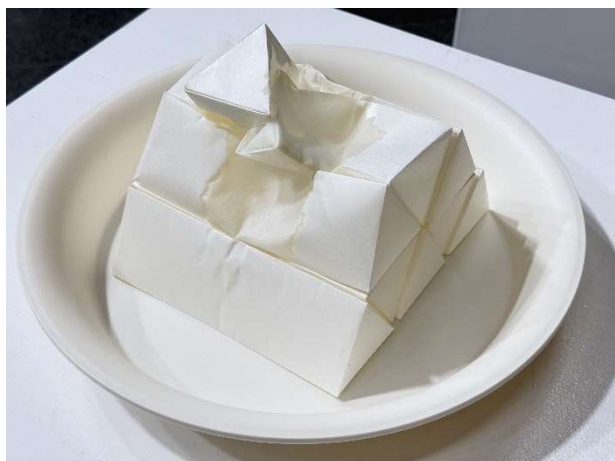
助教 Jamieson Daryl



▲展示会の様子



▲展示会の様子



▲展示会の様子



▲展示会の様子



▲展示会ポスター

3.4 「デザインと日本 C」(2024 年度秋学期)

授業概要

今日のキュレーションは、展覧会やその他の文化的コミュニケーションの組織やプレゼンテーションにとどまらない。学際的・文化横断的な文脈の中で、異なる知のあり方をまとめ、アートと社会の関係を考え、アート機関、美術館、コレクションが築かれてきた前提に挑戦することでもある。

この科目は、日本のアートとデザインの基礎知識、展覧会の歴史、キュレーターの実践を紹介するスタジオ・プロジェクトを実施した。理論的な考察と創造的な作業、そしてキュレーションの実践的な方法が組み合わされ、理論と歴史のセッション、展覧会の見学、キュレーターやアートやデザインに関わる芸術家とのディスカッションを実施した。最終発表イベント「時空 What is the size of time?」にて、九州大学総合研究博物館・九州大学文書館での展覧会や介入のためのコンセプトを共同開発した。

期間 秋学期

担当教員 准教授 結城 円

使用言語 英語

履修者 12名(留学生12名)

講義内容

自然史博物館におけるアートの介入

エクスカーション：九州大学博物館

ブレインストーミング：プロジェクト・コンセプト

プレゼンテーション：展示「Éclat」についてのキュレーター Bettina Klein氏

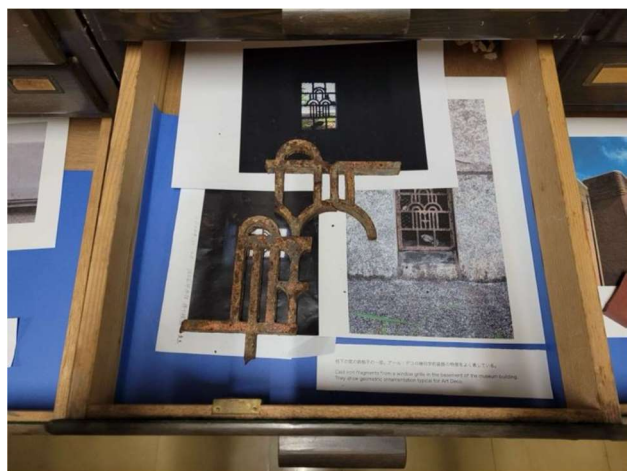
プロジェクト構想・計画

インスタレーション：九州大学総合研究博物館

最終発表イベント



▲展示会のパンフレット



▲展示会の様子

3.5 「デザインと日本 C/日本デザインの理解 C-2」(2024 年度秋学期)

授業概要

この科目は、デザインと日本Cを補完するため、今年度新たに開設された。美術展の歴史と最近のキュレーションの歴史を概観することから始まり、現在のグローバルな文脈における現代アートとデザインのキュレーションに関連する重要な概念を紹介した。また、厳選された理論的なテキスト、画像資料やディスカッションの助けを借りて検討した。講義、グループディスカッション、ペアワーク、プレゼンテーション、太宰府天満宮と境内美術館でエクスカーションを実施した。

期間 秋学期

担当教員 准教授 結城 円

講師 BEYN Ariane

使用言語 英語

履修者 19名(留学生18名)

講義内容

展覧会の歴史

ホワイトキューブのコンセプト

キュレーションの主要概念

キュレーション/キュレーター

サイト・スペシフィック・アート

グローバル・アート

太宰府天満宮と境内美術館へのエクスカーション

最終ディスカッション



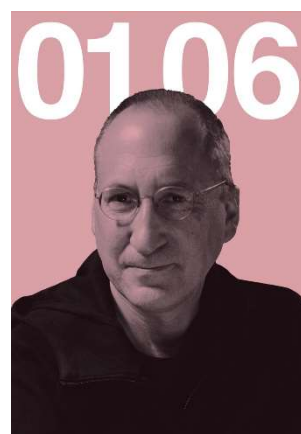
▲エクスカーションの様子

3.6 レクチャー・シリーズとイベント

2022年度から続くこの国際的なレクチャー・シリーズは、アーティストとの直接の出会いや対話を通して、現代アートの最先端を紹介するものである。様々な分野のアーティストが、九州大学の学生、教員、その他のコミュニティのメンバー、そしてアートに関心のある福岡の一般市民を対象に、自身の作品について紹介し、議論している。このシリーズでは、国際的に活躍する多様なアーティストの立場や、社会における現代アートの役割、またデザイン、人文科学、科学、工学といった他の研究分野とアートの潜在的な関連性について理解を深めることができる。このレクチャーは、未来共生デザイン部門、音響設計部門、メディアデザイン部門の教員が共同で開催している。大学改革活性化制度「デザインと日本」シリーズ、大学改革活性化制度「メディアアートによる科学・技術の芸術表現への昇華を通じた価値の可視化プロジェクト」シリーズの助成を受けている。

レクチャー・シリーズ

2024年5月10日	ヴィジュアルアーティスト丹羽良徳氏の映像作品展示とトークイベント
2024年5月30日	作曲家・音楽家のTomas Nordmark氏と音楽家・映像作家のPer Hüttner氏のパフォーマンスとトークイベント
2024年7月13日	音楽家・研究者のアタウ・タナカ氏とヨーロッパ各地で活動する音楽家のエラマー・トリオ（大川彬子氏、Cédric De Bruycker氏、Quentin Meurisse氏）のパフォーマンスとトークイベント
2024年11月21日	アーティスト アニカ・カースとのトークイベント
2025年1月6日	アーティスト クリス・サルターとのトークイベント



▲外部講師講義

4 国際教育イニシアティブ

4.1 COIL (Collaborative Online International Learning) : INTAC (International Art Collaborations Network)

目的

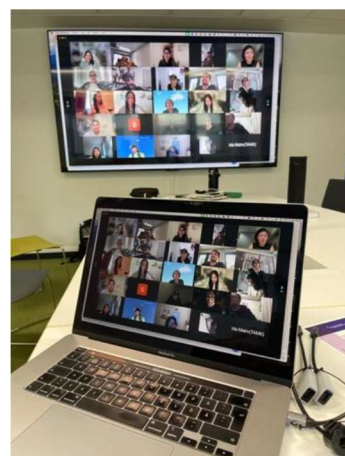
ICT（情報通信技術）を活用した国際的なコラボレーションによる作品制作を目指す、世界6カ国の6大学との共同授業である。6大学とは、ヨーロッパ応用科学大学（ドイツ）、オンタリオ・カレッジ・オブ・アート&デザイン（OCAD）大学（カナダ）、タンペレ応用科学大学（フィンランド）、メキシコ州立自治大学（メキシコ）、中央大学校（韓国）、インディアナ大学ノースウェスト校（アメリカ）。この授業では、海外の大学の教授から指導を受け、フィードバックを受けることができる。また、コミュニケーションや国際交流のために英語を使うことができる。

授業概要

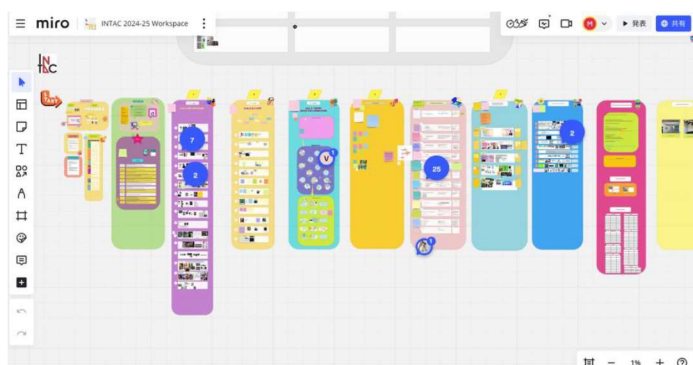
上記6大学の教授らとの共同作業で、デザイン・アート分野でのCOIL教育のノウハウの蓄積を活かし、異なる文化的背景を持った受講生が共同で今年度の「Invisible Strings」というテーマのもと作品を制作した。受講生は、国際的に活躍するアーティストでもある各国の教授陣から直接指導を受けられるだけでなく、英語を介したコミュニケーション・国際交流の機会を得た。本授業はオンラインのみだけでなく、2025年に4月28日～5月4日にメキシコで成果発表展示会の開催が予定されている。

名誉教授	Peter Sramek
教授	Sofia Sienra
教授	Yong-Hwan Lee
助教	Meera Margaret Singh
主任講師	Juha Suonpää
講師	Phuong Thu Hoang
講師	Giselle Mira-Diaz
准教授	結城 円

期間	秋学期
担当教員	准教授 結城 円
使用言語	英語
履修者	2名(留学生1名)



▲オンライン授業の様子



▲授業の様子



▲授業の様子

4.2 工学部連携 シリコンバレー流仮想起業プログラム: ELEP, Zero to One

目的

ELEPは学生の英語能力、イノベーション/グローバル能力を高め、さらに高度な社会において活躍できる新たな力を身につけることを目的としたプログラムである。

概要

このプログラムは芸術工学研究院と工学研究院が共同で実施するもので、芸術工学部・学府および工学部・学府の学生を対象に開講した。ハイブリッドで行われた4週間のアントレプレナーシッププログラムの内容は以下の通りである。

- ・米国カリフォルニア州のサンノゼ州立大学によるオンライン英語研修
- ・同大学学生とのオンラインおよび対面による個人的な交流
- ・シリコンバレーの有名企業や大学へのフィールドトリップ
- ・シリコンバレー現地で活躍されている起業家やベンチャーキャピタルによる講演
- ・Zero to Oneプロジェクトにてデザイン思考法によるビジネス創出のプロセス経験

学生は今年のZero to Oneのテーマであるグローバルマーケットを意識し、最新テクノロジーと掛け合わせて日本の良さを世界に売り込むアイデアをデザインした。

期間

2025年3月3日～3月27日

担当教員

九州大学大学院芸術工学研究院 准教授 張 彦芳

九州大学大学院工学研究院 教授 寺西 亮

九州大学シリコンバレー 客員教授 松坂 秀二郎

履修者

20名



▲ELEP 研修中の様子



▲ELEP 研修中の様子



▲ELEP 研修中の様子



▲ELEP 研修中の様子

5 海外パートナーの開拓

5.1 ダブル・ディグリープログラム始動

ダブル・ディグリープログラムとは、九州大学に在籍しながら、協定校へ留学し、指定のカリキュラムを修了すると、両大学の学位が取得できる学位プログラムである。

九州大学大学院芸術工学府では、2024年3月に台湾国立成功大学計画デザイン学部（大学院修士課程）とダブル・ディグリーの協定を締結した。本年度は当該プログラムの運用初年度であり、本学の国際教育戦略における重要な達成指標として位置づけられた。厳正な選考を経て、本学から1名の学生が本プログラムの第1期生として選出され、2025年2月より、台湾国立成功大学への1年間の留学を開始した。

ダブル・ディグリープログラム参加学生は、九州大学と台湾国立成功大学の両大学において、複数の教員から多角的・多面的な指導を受けながら、それぞれの大学で異なるテーマの修士研究を並行して進めている。留学先の台湾国立成功大学では、主に英語で実施される授業を履修し、国際的な学術環境において高度な専門性と言語能力を培う機会を得ている。

さらに、プログラムの持続的な発展と学生の参加意欲の向上を図るため、詳細な情報を網羅したダブル・ディグリープログラムのパンフレットを作成した。このパンフレットは、次年度以降の募集活動における主要な広報資料として、本プログラムの魅力と教育的意義を広く周知する役割を果たすことが期待される。



▲授業風景



▲ダブル・ディグリープログラム学生募集パンフレット

5.2 海外大学関係者の表敬訪問対応

概要

2024（令和 6）年度において、九州大学大学院芸術工学研究院へ合計 33 件、19 か国・地域からの訪問があり、訪問客数は全体で 249 名（教職員 77 名、学生 172 名）に達した。

海外訪問客の分析

■ 出身国・地域別

海外訪問客 33 件の出身国・地域の内訳は、台湾 10 件、ドイツ 5 件、インドネシア 4 件、インド 3 件、フィンランド 2 件、他（オーストリア、マレーシア、香港、英国、メキシコ、韓国、フランス、クロアチア、アメリカ合衆国、中国、バングラデシュ、タイ、チュニジア、イタリア）各 1 件であった。

■ 来訪目的

海外訪問客の来訪目的は、今後の交流に関する意見交換 11 件、大橋キャンパス見学 7 件、ワークショップ 4 件、シンポジウム 3 件、共同授業 2 件、展示会 2 件、他（研究室訪問、教職員研修、短期プログラム、協定調印式）各 1 件であった。

■ 受入教職員の所属部門

海外訪問客の受入教職員所属部門の内訳は、環境設計部門 8 件、人間生活デザイン部門 8 件、ストラテジックデザイン部門 6 件、未来共生デザイン部門 6 件、メディアデザイン部門 1 件、音響設計部門 1 件、九州大学国際部 2 件、その他（名誉教授）1 件であった。

芸工インターナショナルオフィスの対応

これら 33 件の海外訪問客に対する、芸工インターナショナルオフィスの対応は、延べ 137 件であった。内訳は、写真撮影・記事掲載等 27 件、広報用物品（芸工グッズ）手配 26 件、キャンパスツアーガイド 21 件、芸工紹介プレゼンテーション 18 件、会場予約・設営 17 件、教員間ミーティング参加 15 件、研究院長表敬訪問対応 13 件であった。訪問件数に対する施設見学率は 63.6%（21/33 件）であった。

総括

2024（令和 6）年度、九州大学大学院芸術工学研究院における国際交流活動は、教職員および事務部門との緊密な連携体制のもとで実施されてきた。海外訪問客の受入に際しては、芸工インターナショナルオフィスが中核的な調整機能を担いつつも、各部門の専門性を活かした多層的な支援体制の構築が確立した。

具体的には、研究院長表敬訪問においては総務課庶務係との円滑な連携により、適切なプロトコルに基づいた接遇が実現された。また、広報活動に関しては総務課企画・広報係との協働により、芸工公式ウェブサイトおよびソーシャルメディアにおける訪問内容の記録や対外的な情報発信が効果的に遂行された。

特筆すべきは、キャンパスツアーにおける各施設管理部門のスタッフによる専門的な解説の提供であった。施設スタッフは自身の業務スケジュールを調整し、日本語および英語による専門的な施設紹介を行うことで、訪問客の学術的関心に応える質の高い情報提供を実現した。こうした各部門の自発的な協力があってこそ、大橋キャンパスの研究・教育環境の魅力を効果的に伝えることが可能となっている。

芸工インターナショナルオフィスは、これら多岐にわたる部門との調整役として機能しながら、海外訪問客の多様なニーズに対応するワンストップサービスを提供してきた。このような組織横断的な協力体制は、単なる訪問受入にとどまらず、将来的な国際共同研究や教育交流の基盤構築に寄与する戦略的な取り組みとして位置づけられる。

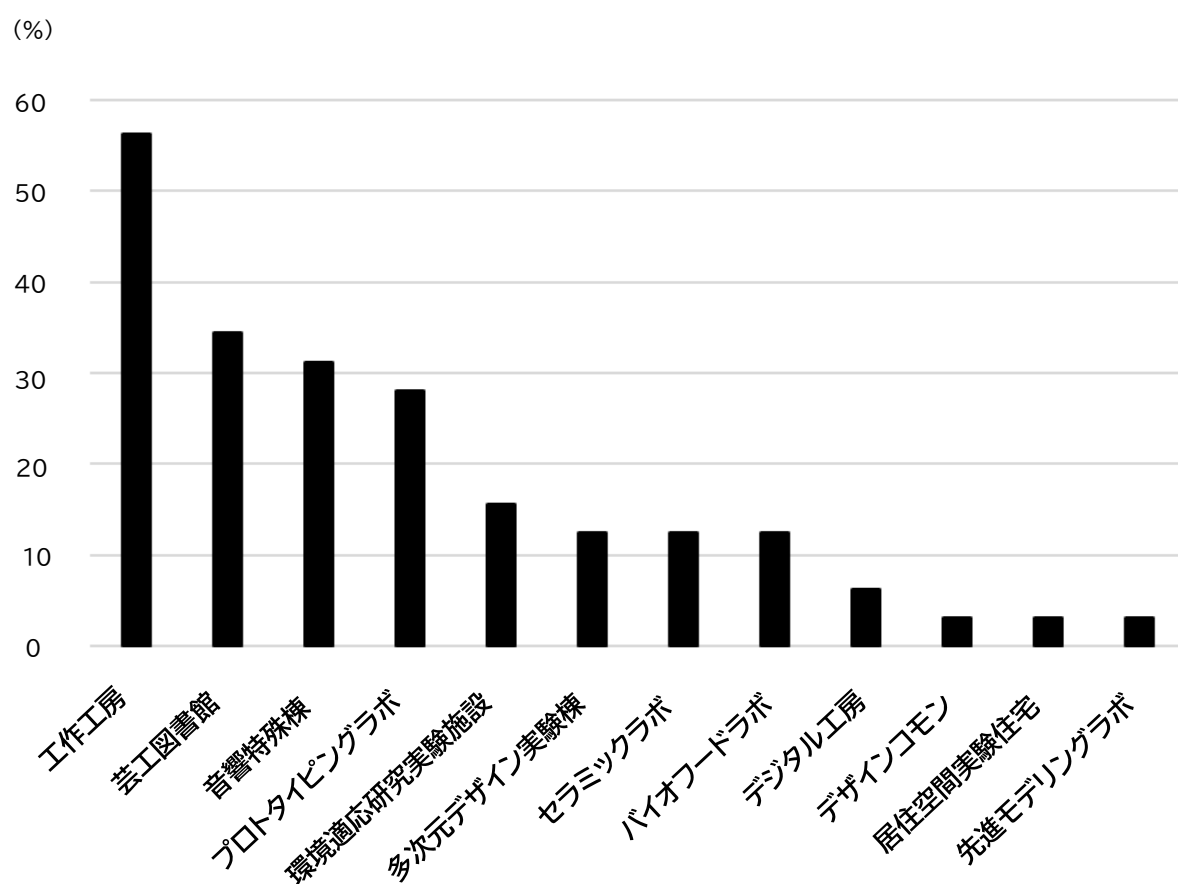
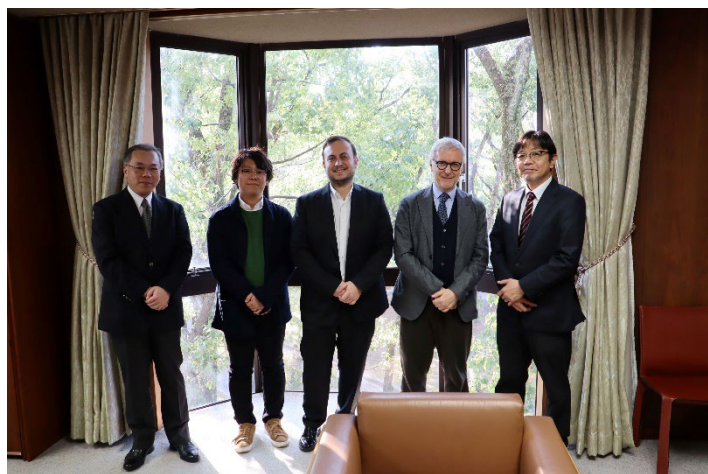


図. 海外訪問客件数（32 件）に対する九州大学大橋キャンパス施設見学率

表. 2024（令和 6）年度海外訪問客情報

来訪年月日	大学名	国・地域名
2024 年 4 月 22 日	台湾師範大学	台湾
2024 年 5 月 2 日	インスブルック大学	オーストリア
2024 年 5 月 13 日	マレーシア工科大学	マレーシア
2024 年 5 月 14 日	バンドン工科大学	インドネシア
2024 年 5 月 24 日	ポツダム応用科学大学	ドイツ
2024 年 6 月 19 日	台湾師範大学	台湾
2024 年 6 月 19 日	銘傳大学	台湾
2024 年 7 月 1 日	中原大学、元智大学	台湾
2024 年 7 月 9 日	ハサヌディン大学	インドネシア
2024 年 7 月 24 日	ラップランド大学	フィンランド
2024 年 8 月 2 日	香港理工大学	香港
2024 年 8 月 28 日	オックスフォード大学	英国
2024 年 9 月 4 日	国立成功大学	台湾
2024 年 9 月 12 日	大連理工大学、北京理工大学	中国
2024 年 9 月 17 日	国立連合大学	台湾
2024 年 10 月 11 日	ポツダム応用科学大学	ドイツ
2024 年 10 月 29 日	無所属(ガリ版アーティスト)	メキシコ
2024 年 10 月 31 日	台湾師範大学	台湾
2024 年 11 月 6 日	PLN 工科大学	インドネシア
2024 年 11 月 8 日	蔚山科学技術大学校、バンドン工科大学、IISc バンガロール、インド工科大学グワハティ校、パリ国立高等鉱業学校、ザグレブ大学（ISDC2024 参加）	韓国、インドネシア、インド、フランス、クロアチア
2024 年 11 月 12 日	セプルーノペンバー工科大学	インドネシア
2024 年 11 月 18 日	台湾師範大学	台湾
2024 年 12 月 2 日	イリノイ大学アーバナシャンペーン校	アメリカ合衆国
2024 年 12 月 6 日	東華大学	中国
2024 年 12 月 9 日	ダルムシュタット応用科学大学	ドイツ
2025 年 1 月 14 日	国立成功大学	台湾
2025 年 1 月 15 日	ラップランド大学	フィンランド
2025 年 2 月 4 日	国立成功大学	台湾
2025 年 2 月 7 日	リーディング大学、チッタゴン工科大学、カセサート大学、チュニス ESAD 大学、CEPT 大学（Environmental Design Global HUB 短期プログラム参加）	バングラデシュ、タイ、チュニジア、インド
2025 年 2 月 10 日	インド工科大学ハイデラバード校	インド
2025 年 2 月 20, 21 日	ミラノ工科大学	イタリア
2025 年 2 月 28 日	ワイマール大学	ドイツ
2025 年 3 月 10 日	ケルン大学	ドイツ



▲ 研究院長表敬訪問



▲ 芸術工学部・芸術工学府の紹介



▲ キャンパスツアー

5.3 部局間国際交流協定新規締結、更新のサポート

芸工インターナショナルオフィスでは、総務課研究支援係と連携し Erasmus+プログラムを含む国際学術・学生交流協定の手続きを支援した。

令和6年度（3月3日時点）の部局間交流協定数：50校

令和6年度協定変更状況：

	進捗状況	大学名	国名
新規締結	締結済7件	ニューサウスウェールズ大学（UNSW）	オーストラリア
		インド工科大学ハイデラバード校	インド
		インド工科大学グアハティ校	インド
		ポツダム応用科学大学	ドイツ
		国立台湾師範大学	台湾
		カールスルーエ工科大学	ドイツ
		浙江科技大学	中国
	審議中3件	チッタゴン工科大学	バングラデシュ
		マレーシア工科大学	マレーシア
		オールボー大学	デンマーク
協定更新	更新済9件	ダルムシュタット応用科学大学（Erasmus+）	ドイツ
		ケルン応用科学大学	ドイツ
		ベルフォール・モンベリヤール工科大学	フランス
		アールト大学	フィンランド
		蔚山科学技術大学校	韓国
		アナドル大学	トルコ
		エスキシェヒル工科大学（Erasmus+）	トルコ
		ミラノ工科大学	イタリア
		ハサヌディン大学	インドネシア

5.4 ダルムシュタット応用科学大学でのワークショップ

目的

芸術工学部とダルムシュタット応用科学大学のデザイン学部は、約20年間にわたり交流を続けている。今年度は、ダルムシュタット応用科学大学のTino Melzer教授、Tom Philippsと芸術工学部の結城 円准教授の発案により、初めてダルムシュタットで合同ワークショップが開催された。ダルムシュタット科学技術大学のプロダクトデザインの教授陣から直接指導を受け、英語を介したコミュニケーション・国際交流も授業の目的のひとつである。

ワークショップ概要

折紙の幾何学の基礎から様々な設計ツールの紹介、材料や加工プロセスを含めた折紙構造の製造法に関して学習した。実際の工学応用事例を基に、各分野で折紙がどのようにイノベーションを起こすこと期待されているのかを解説した。後半の設計演習では、折紙の数理をデザインに応用する方法を学習した。最終的には折紙を活用したプロダクトデザインのプロトタイプを作成し、展示を実施した。

期間 2024年10月15日～10月22日

担当教員 准教授 結城 円
准教授 齋藤 一哉
教務職員 藤田 元気

使用言語 英語

履修者 7名(他にダルムシュタット応用科学大学学生 11名)

講義内容

第1日目	イントロダクション&折紙の幾何学①(折り畳み条件, 剛体折り条件)
第2日目	折紙の幾何学②(折紙設計・シミュレーションソフトの紹介・実践)
第3日目	折紙構造の製作法(カッティングプロッタ, 3Dプリンタ)
第4日目	プロダクトデザイン実践
第5日目	プロダクトデザイン実践、エクスカーション：フランクフルト
第6日目	エクスカーション：ハイデルベルク城
第7日目	展示準備
第8日目	展示



▲ワークショップの様子



▲ワークショップの様子



▲展示の様子

6 国際広報活動の充実

芸術工学部局の様々な活動の魅力を積極的に発信する。海外関係者や入学希望者と情報交換しながら良好な関係を築き、信頼されるコミュニティづくりを目指す。

6.1 国際広報 ウェブサイト

芸術工学部公式ウェブサイトやGeiko Globalウェブサイト日本語と英語で掲載した。今年度の芸術工学部公式ウェブサイトへの投稿は、23件である。Geiko Globalウェブサイトについては、「協定校からのお知らせ」の項目を追加し、学生が利用しやすいサイトを目標に随時更新している。

SNS

芸工インターナショナルオフィスSNS（Instagram）に日本語と英語で情報を発信した。今年度のInstagramへの投稿は、56件である。

その他の成果物

- 芸工サポーターのビジュアルアイデンティティ制作
- Seasonal Greetingsのビジュアルアイデンティティ制作



▲芸工サポーターのロゴ



▲Geiko Global ウェブサイト



▲Instagram



▲Seasonal Greetings のビジュアルアイデンティティ

6.2 部局活動の海外発信

- ・ 芸術工学部国際ネットワーク（海外大学関係者・同窓留学生）へのグリーティングカード送付
- ・ 年間活動報告書のオンライン配布

6.3 留学生リクルート

令和6年度は九州大学主催のオンライン留学フェア「Virtual Graduate Study Fair」（春季および秋季）に参加した。両イベントでは、オンラインブース出展、芸術工学府プログラム紹介プレゼンテーション、質疑応答セッションを実施した。さらに、在学生の協力を得て MEXT 奨学金大使館推薦の申請プロセスや経験談、成功事例、キャンパスライフの紹介も行った。

日付	イベント名	参加人数
2023年4月19日	第1回九州大学大学院オンライン留学フェア	全体161名（分科会20名）
2023年11月1日	第2回九州大学大学院オンライン留学フェア	全体139名（分科会20名）



▲第1回九州大学大学院オンライン留学フェア



▲第2回九州大学大学院オンライン留学フェア

7 国際連携プロジェクト支援

国際連携教育（海外大学との共同授業、ワークショップ、サマースクール、オンラインイベント等）により、派遣提携先の開拓や留学生リクルーティングへと結びつく継続的な取り組みに対する支援

7.1 国際連携教育支援事業

目的

部局の目標の一つである「教育の国際化」を実現するため、教育の向上と国際的に活躍できる人材育成を実現する取り組みを支援した。

*公募申請等各種手続きは、学務課学生係が担当した。

採択プロジェクト

- Strategic Service Design Lecture Series for Master's Level
教授 Sarantou Melanie (207,000 円)
- Short Collaborative Design @NTNU, Taiwan
助教 Loh Wei Leong (200,000 円)



▲SDGs インターナショナル・デザイン・アワード 2024
ポスター

7.2 その他サポート

- SDGsインターナショナル・デザイン・アワード2024（情報発信支援）
- 環境設計グローバル・ハブさくらサイエンス招へい短期プログラム（キャンパスツアー対応）
- Creabiz International Week2024
（サウンド・デザインに関する授業・ワークショップ、聴覚と音環境に関する「coffee + talk event」、ITSの先生と海外の先生と「networking event」）



▲Creabiz International Week2024
授業風景



▲Creabiz International Week2024
ポスター

8 授業の英語化支援 FD

概要

2025 年 3 月 11 日、芸術工学研究院の教職員を対象に「授業の英語化支援 FD」を開催した。この FD は、AI ツールを活用した教員の授業準備負担の軽減と、留学生の学習環境改善および日本人学生の国際性向上の両立を目的に実施された。

実施内容

- ・ 開催日時・場所: 令和 7 年 3 月 11 日 (火) 10:30-11:30、デザインコモン 2 階
- ・ 参加者: 教授 8 名、准教授 4 名、助教 9 名、職員 4 名 (合計 25 名)
- ・ プログラム:
 1. 留学生アンケート結果報告
 2. 授業の二言語化を支援する AI ツール紹介・実演
 3. グッドプラクティス共有 (芸術工学府 長津准教授)
 4. 質疑応答

成果

- ・ 参加者の 96%が「とても満足」または「満足」と回答し、実施時期についても 93%が「とても適切」または「適切」と評価した。
- ・ リアルタイム翻訳ツールや AI 技術の実演形式での紹介は特に高評価を得た。Microsoft Translator の双方向翻訳機能や Claude 等の最新 AI ツールに関心が集まった。
- ・ 多様な言語背景を持つ学生への配慮や効果的な授業運営に関する具体的方法論が共有され、参加者間で有益な情報交換の場となった。

今後の展開

- ・ 教員と学生がともに学びやすい環境づくりについて継続的な対話を促進する。
- ・ 翻訳用タブレットの貸出等、授業の英語化支援に向けたさらなる環境整備を検討する。
- ・ FD の内容を学生とも共有し、双方向の理解促進を図る。



▲当日の様子

9 様式の英語化

目的

事務部が担う文書の英訳や英文校正を行い、留学生や研究者、また今後入学が見込まれる海外の学生のために芸工の情報を英語で提供する。

実施内容

学務課：校正 3 件（学部生・大学院生便覧、学生案内、芸術工学部公式ウェブサイト更新に伴う英訳チェック）、英訳 1 件（カリキュラムポリシー）

総務課：校正 2 件（キャンパス案内、芸術工学部公式ウェブサイト卒業生の声）

10 各種予算申請

国際関係の様々な外部資金申請や申請手続きのサポート

- ・JASSO海外留学支援制度「世界的高度デザイン系人材を育成する芸術工学部国際プログラム」（派遣）（4,080,000円）

11 その他の活動

- ・広報用芸工紹介スライドの更新
- ・Geiko Globalウェブサイトの再開発、運営・更新
- ・国際部との情報共有
- ・部局国際推進室合同ミーティングへの参加（年4回）
- ・部局国際推進室訪問対応（2024年11月13日）
- ・国際教育ナビゲーションセンター訪問対応（2025年2月27日）